

味岡洋一先生を偲んで

大腸癌研究会 名誉会長
杉原 健一

大腸癌研究会会長の味岡先生が 2025 年 12 月 27 日にご逝去されました。

大腸癌研究会 100 回記念誌のための座談会の席で味岡先生が、「以前、大腸癌研究会でフロアから武藤先生に dysplasia の質問をして厳しいご返事をいただいたあと、フロアで杉原先生から『君さっきの質問はおかしいよ』と言われたことがあり、怖い先生だと思った」と話され、私には記憶はなかったのですが、それが味岡先生との最初の出会いでした。その後、私が国立がん研究センターに勤務していた時に突然味岡先生から「大腸癌研究会でお会いした味岡です。Jass の下で勉強したいので、Jass を紹介していただけませんか」との依頼の電話を受けました。Jeremy Jass は私が 1985 年から 2 年間 St Mark 病院に病理研究員として勤務していた時の上司だった先生だったのでそのような依頼をされたのだと思います。当時 Jass は St Mark 病院からニュージーランドのオークランド大学の病理の教授として異動をされていたので、手紙で味岡先生を紹介いたしました。その後、味岡先生は 1995 年に Jass のところに留学されています。

病理医と外科医が出会う機会はあまりないのですが、唯一大腸癌研究会がそのような貴重な場です。大腸癌研究会学術集会では味岡先生がフロアから壇上の演者に質問をされているのをよく目にしました。味岡先生のコメントや質問内容は演者に十分に配慮した言葉で話され、一堂に会している外科医、内科医にも十分理解できるような教育的な内容であり、味岡先生が発言されると、私もいつも傾聴していました。味岡先生の思い出は沢山ありますが、最も印象的に残っているのは、2016 年 4 月にスイスのベルンで 2 日間行われた budding の国際会議に上野先生と共に味岡先生とほぼ 3 日間ご一緒した時です。2 回の晚餐会だけでなく、夕方の時間が空いた時にビールやワインを飲みながら、趣味や嗜好品、日常生活など個人的なことを話しながらゆっくりした時間を過ごしたことでした。味岡先生は多趣味な方で、また様々なことに造詣が深いのに驚いたことを覚えています。

2022 年 1 月に大腸癌研究会の会長になられてからは学術集会毎に開催される都市の居酒屋で事務局長の川合先生とお酒を酌み交わしながら、いろいろなことを話し合いました。ご病気になられてからも、少しも隠さずご病気のことをお話されていて、また、学術集会には必ずご出席されていました。今考えると、治療スケジュールは学術集会に合わせていたのではないかと思います。

味岡先生の参加が最後になった 2025 年 7 月の学術集会が終わった後福井市駅前の居酒屋で「会長の再任時は 68 歳を越えなければいいのですね」と話されていて、もう 1 期会長を続けるお気持ちがあったのに、残念です。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。